

渋沢栄一人生ゲーム 渋沢栄一翁を軸と

埼玉県には、私たちの心に深い感銘を与え続けている多くの先人がいます。なかでも、自らの障害を乗り越えて「群書類従」の編纂など数多くの偉業を成し遂げた塙保己一、さまざまな企業の設立や育成に携わる一方で多くの社会事業にも尽力し、近代日本経済の礎を築いた渋沢栄一、新たな分野に果敢に挑戦し、日本公認女医第1号となった荻野吟子の3人を埼玉三偉人と称えています。

今年の2月から開始した渋沢栄一の生涯を描く大河ドラマの放映を好機と捉え、県では、埼玉三偉人の認知度向上及び渋沢栄一を中心とした周辺市町村への観光周遊施策の展開を計画しています。

その事業の一環で、渋沢栄一の生涯を若い世代に楽しく学んでもらうことを目的とし、「渋沢栄一人生ゲーム」を制作しました。制作した人生ゲームは、7月中旬以降順次、県内の児童館や公共施設へ配布しています。

渋沢栄一の人生を追体験する盤面 ～江戸時代から令和、未来へ～

人生ゲームとは、各プレイヤーが億万長者を目指してコマを進め、さまざまな職業についたり、結婚、出産、転職、家を購入したり、山あり谷ありの人生をシミュレーションするボードゲームです。日本では、株式会社タカラトミーが販売元で、商品開発も行っております。

今回制作した渋沢栄一人生ゲームでは、渋沢栄一の人生を追体験する形でゲームが展開していきます。

子供時代は「大好物の煮ぼうとうを待ちきれずに食べてヤケドする」や「得意の剣術で大人と対決!」といった遊び心のあるマス、実業家時代は「新橋―横浜間に初の鉄道を開通させる」「電気の普及のため銀座にアーケ灯を設置」のような実際に渋沢栄一が行った事業を取り入れています。未来には「火星で深谷ネギの大規模農場に投資する」という夢のあるマスも!





また、人生ゲームでは結婚や出産などのライフイベントの際に自動車ゴマに同乗する人数が増えるマスがあります。この“人が乗ってくる”イベントのマスには、結婚や子どもが生まれるといったおなじみのものに加え、徳川慶喜や塙保己一、荻野吟子が乗車してくるといった渋沢栄一版ならではのユニークな設定を追加しました。人生ゲームの定番の要素を残しつつ、渋沢栄一や埼玉県にゆかりのある内容をふんだんに取り入れた特別仕様の盤面となっています。

複数の事業家になれる

通常的人生ゲームでは、プレイヤーは1つの職業しか選べません。渋沢栄一人生ゲームでは、複数の企業の設立に関わった渋沢栄一の生涯を追体験する仕様となっているため、「金融／保険」や「教育／医療」などの複数の事業家になることが可能です。生涯に約500の企業の育成に係わり、同時に約600の社会公共事業や民間外交にも尽力した渋沢栄一の

ように、さまざまな事業を手掛けてみましょう！

渋沢栄一版の特別紙幣

渋沢栄一は令和6年度、新一万円札の肖像に採用されることが予定されています。今回、ゲームで使用する紙幣として特別仕様の渋沢栄一版 \$1,000,000 札を制作しました。一足お先に渋沢栄一の肖像の入った紙幣を手にとってください。

埼玉 150 周年記念「彩の国カード」

通常的人生ゲームではゲームの中のボーナスアイテムとして「お宝カード」を入手することができます。渋沢栄一版では「お宝カード」のかわりに「彩の国カード」を使用します。「超巨大草加せんべい」や「映える川幅うどん」など、少しくスツと笑ってしまうようなお宝もあり、楽しみながら埼玉県の名産等を学ぶことができます。どんなカードがあるのか、実際の渋沢栄一人生ゲームで確認してみてください。



埼玉県のマスコット
さいたまっち&コバトン

その他の事業

渋沢栄一人生ゲームの他、埼玉県では公共交通機関での埼玉三偉人のPR企画や、埼玉三偉人版フリーペーパーを制作し、県内の周遊観光を促進する事業を計画しております。

また、安心して観光を楽しんでいただくため、県では、彩の国「新しい生活様式」安心宣言を踏ま

え、感染防止対策に万全を期している“安心・身近・楽しい”市町村のおすすめ観光スポット情報をまとめた特設ページを埼玉県公式観光サイト「ちよこたび埼玉」内に開設しました。

埼玉県には、歴史や文化など魅力的な観光地が多くあります。遠くへ出かけることが難しい今だからこそ、埼玉県の魅力を再発見してみませんか。

埼玉三偉人

はなわ ほ き いち
塙 保己一 (1746 ~ 1821)

江戸時代後期に活躍した全盲の国学者

武蔵国児玉郡保木野村（現在の埼玉県本庄市）生まれ

7歳のとき、病気がもとで失明しましたが、15歳で江戸に出て、学問の道に進みます。多くの困難の中、大文献集「群書類従」666冊をはじめ、散逸する恐れのある貴重な文献を校正し、次々と出版していきました。

48歳のとき、国学の研究の場として現在の大学ともいえる「和学講談所」を創設し、多くの弟子を育てました。生涯、自分と同じように障害のある人たちの社会的地位向上のために全力を注ぎました。

しぶさわ えいいち
渋沢 栄一 (1840 ~ 1931)

近代日本経済の父

武蔵国榛沢郡血洗島村（現在の埼玉県深谷市）生まれ

6歳から従兄弟にあたる尾高惇忠から論語をはじめとした学問を学び、14歳からは家業を手伝いながら、後の事業運営などの基礎を固めていきました。特に明治から昭和初期にかけては戦争、スペイン風邪の流行や関東大震災など激動の時代。その中で500社あまりの企業設立に関わり、約600の教育・社会福祉公共事業の支援と民間外交に取り組み、数々の偉大な功績を残し、「道徳と経済の合一」を基本理念として日本の資本主義の礎を築きました。

また、塙保己一の遺徳の顕彰や群書類従の版木の保存等に大きな働きをしたことも知られています。

おぎの きんこ
荻野 吟子 (1851 ~ 1913)

日本第1号の公認女性医師

武蔵国幡羅郡俵瀬村（現在の埼玉県熊谷市）生まれ

18歳で結婚しましたが、不慮の病に侵され2年後に離婚。この時、婦人科の治療を受けたことから、女性医師の必要性を痛感し、医師となることを決意しました。

しかし、当時、女性には医術開業試験の受験が認められておらず、制度改正に奔走しました。その際、塙保己一が校訂し、後世に「令義解」という古文書に女医の記述があることを訴えたと言われています。

さまざまな困難を克服し、明治18年（1885年）、医術開業試験に合格、日本で最初の公認女性医師となりました。また、開業後は診療活動に加え、婦人解放運動等の社会的活動も担い、女性の地位向上や衛生知識の普及にも大きく貢献しました。